

令和4年度 第1回 学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立とりかい高等支援学校
校長名	松村 高志

開催日時	令和4年6月27日(月) 15:30~17:00
開催場所	大阪府立とりかい高等支援学校 図書室
出席者(委員)	A委員、(欠席)B委員、C委員、D委員、E委員、F委員
出席者(学校)	校長、教頭、事務長、首席A、首席B、 教務主任、生徒指導主事、保健主事、進路指導主事、地域支援部長
傍聴者	0名
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> • 本日のレジメ(次第) • 学校運営協議会 実施要項 • 学校運営協議会 委員名簿 • 学校運営協議会 事務局名簿 • 令和3年度「学校経営計画及び学校評価」 • 令和4年度「学校経営計画及び学校評価」 • 令和4年度 使用教科用図書選定一覧表 • 授業参観保護者アンケート(5/7:土曜参観) • 令和3年度3年生(7期生)進路先一覧 • 学校いじめ防止基本方針 • (参考資料) 令和4年度学校要覧
備考	協議終了後に「なにわの伝統野菜」の「鳥飼ナス」の栽培の様子を農場で見学

議題等(次第順)
<ul style="list-style-type: none"> • 令和4年度「学校経営計画」について • 令和4年度使用教科書選定について • 授業参観アンケートについて(5/7:土曜参観) • 令和3年度3年生(7期生)進路状況について • 地域交流について(淀川わいわいガヤガヤ祭) • 安満遺跡公園ハンドメイドフェスについて • 学校いじめ防止基本方針について • その他、質疑応答

令和4年度「学校経営計画」について

【校長】

令和3年度第3回学校運営協議会で示した令和4年度の学校経営計画は、教育庁のヒアリング等を経て内容を微調整したが、大きく変更していない。中期目標について紹介する。

1：教育活動の充実に関して、1人1台端末の効果的な活用とICTを活用した授業の推進に努め、授業改善を進める。

2：学校組織力向上に関して、今年は創立10周年であるため、次の10年を見据えて、高等支援学校教員としての資質の向上と、時代の変化に対応できる学校組織力の向上をめざす。支援学校教員免許の所有率80%以上をめざす。

3：地域連携・交流に関して、令和4年度選抜は定員割れであったため、広報の仕方について再検討したい。中学校教員を対象にした説明会やオープンスクール、学校説明見学会等のあらゆる場面で、本校について伝えていきたい。防犯・防災について地域と連携できる部分を模索していきたい。国際交流として、研修旅行は海外を検討しているが、新型コロナウイルス感染症の影響から、3年連続、国内に変更せざるを得ないだろう。次年度の海外実施を検討したい。

4：働き方改革に関して、令和3年度は時間外勤務80時間以上の教員がのべ3人であった。今年度は0人としたい。仕事の抱え込みがないか、注意深く見守っていきたい。

【A委員】

1人1台端末は家に持ち帰って宿題をするなどの予定はあるか。

【校長】

令和3年度はコロナ前に届いた端末を生徒に配付し、休業中は双方向のやり取りができた。今年度はまだ配付していないが、今後に備え、特に1年生は通信のチェックをしたい。生徒の携帯電話でGoogle classroomを介した連絡も試している。

【D委員】

働き方改革について、時間外勤務80時間越えは、今の世の中あり得ない。先生が不幸せで、生徒が幸せになれるのか。時間外を0にしてほしい。精神論ではなく、制度や仕組みで具体的効果のあるものが必要ではないか。

【校長】

教職員のストレス度チェックは、昨年度は90%台であり、低いといえる。とはいえ、時間外が多い教職員がいることは改善が必要だと考えている。電話連絡が17時以降でないとなつながらない家庭もあるが、翌日は早く退勤するなどのメリハリをつけた勤務形態も提唱していきたい。

・令和4年度使用教科書選定について

【教務主任】

資料は各学年の使用教科書一覧となっている。教科書の実物は前方のテーブルに学年ごとに並べてあるので、ご自由にご覧ください。

【C委員】

自分の時代とは違って、雑誌のように整っている。

【D委員】

教科書が「18才成人」について対応していない部分は、どのように生徒に伝えるのか。

【進路指導主事】

家庭科や社会の授業で、契約や選挙権について伝えている。

【E委員】

ルビが少なく、本校の生徒の実態に即した教科書を選定している印象である。「一人暮らしのサポートブック」をどの授業で使用するのか。

【首席B】

2、3年生が学ぶライフデザインの授業で使用している。卒業後に一人暮らしをする生徒もいるため、在学中から具体的にイメージする必要がある。3年の秋にはライフプランナーを招いた授業も行っている。

【F委員】

授業内容の理解の度合いは生徒一人ひとり異なる中で、教科書をどのように使っているか。日々の授業内容や子どもの達成度はなかなか親に伝わらない部分がある。

【教務主任】

教科書だけでなく、生徒が取り組みやすいように教員が作成したプリントを使用することもある。理科は資料集として活用している。社会は時事ネタを扱うこともある。外国語は生徒により、アルファベットや単語の書き取り、文の構成など様々である。3年生は会話を中心とした内容にしている。

・授業参観アンケートについて（5/7：土曜参観）**【首席A】**

資料は学校評価の一部でもある、5月7日（土）の土曜参観の保護者アンケートを集約したものである。8枚の提出があった。『授業の様子を見ることができて良かった』『一人ひとりに当ててくれて良かった』『とりかいに入学できて良かった』といった記載があった。今後は7月と12月の「授業参観週間」でもアンケートを回収する予定である。

・令和3年度3年生（7期生）進路状況について**【進路指導主事】**

資料は3月に卒業した7期生の3月末時点での進路先の一覧です。卒業生は31名で、企業への就職が25名、支援施設等には4名、専門学校への進学が1名、未定が1名でした。企業への就職率は81%で、令和2年度の82%と同じ程度である。本日までに1名が退職し、未定の1名は現在、就労移行支援事業所の見学をしている。在校生（8期生）は30名のうち、25名が就職を希望している。これからたくさんの実習に出る予定である。

・地域交流について（淀川わいわいガヤガヤ祭）

【地域支援部長】

追加資料は5月29日（日）に3年ぶりに淀川河川敷で開催された摂津市主催のお祭りの様子を本校PTAが「PTA新聞」の記事としてまとめたものである。本校の職業学科である「生産技術科」「食とみどり科」「生活科学科」の製品を紹介するブースとして出店し、2・3年生がこれまでの製品を販売した。地域の方もたくさん見に来ていただき、用意していたものはほとんど売れた。本校の生徒にとっても、地域で学校紹介や自分たちの頑張りを伝えることができ、表情がとてもいきいきとしていた。

・安満遺跡公園ハンドメイドフェスについて

【首席A】

同じような地域での製品販売の場として、昨年度から、高槻市の安満遺跡公園にて不定期で開催されているイベント「安満遺跡公園ハンドメイドフェス」がある。こちらも休日の開催で、職業学科の3年生がこれまでの製品を販売し、来場者に喜んで頂いている。二つのイベントに共通しているのは、生徒主体で販売計画、製品づくり、売り子体験をしていることである。また、地域の方からは温かい言葉をかけていただき、それが、生徒の満足感や自己肯定感となり、次の製品づくりへの意欲につながっている。やはり、地域との交流は学校にも生徒にとっても欠かせないものであると、改めて思うところである。

【A委員】

校内での販売の機会はあるか。

【首席A】

11月12日に学校祭があり、2年生が中心となって学科製品を販売する予定である。コロナ禍であるが、地域への開放について検討したい。

・学校いじめ防止基本方針について

【首席A】

本校には、いじめに対応する部署として「いじめ・人権対策委員会」がある。いじめとは「児童等に対して、一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。」と定義されている。また、「いじめを受けた生徒が心身の苦痛を感じているかどうか、いじめ成立の判断条件であり、いじめた側の理由のいかんに関わらず、他者の心身に苦痛を与える行為は絶対にゆるされないということを確認する必要がある。」とされている。

本校では、いかなる理由があろうともいじめは許される行為ではない、という認識で指導・支援に毅然とした態度で臨むこととしている。また、いじめに対する指導・支援は、いじめられた生徒や保護者に対する支援を最優先に行うとともに、いじめた生徒に対する指導や、いじめた生徒が抱える問題や背景に対する支援を、必要に応じて外部機関とも連携しながら行うものとする。また、いじめが起きた集団を分析し、観衆や傍観者となっていた生徒たちへの働きかけや指導を行うなど、多角的な視野を持ちながら進めていくものとする。

本校では、いじめの早期発見につなげるために、「いじめに関するアンケート」を6月と12月に行う予定である。また、生徒や保護者からの相談窓口を設け、直接の相談、あるいは記述式の相談を随

時受け付けている。毎日の昼休みには、各種の相談等を気軽にできる場として「ランチタイム相談室」も開催し、生徒の表情や態度の変化を掴むようにしている。

【D委員】

実態として、いじめと認識した事例はあるのか。

【首席A】

1年生は入学後の早い段階で小さなトラブルが起こることがある。背景にはコミュニケーション力の未熟さがあり、いじめと捉えるか判断の難しいこともある。学年教員が生徒の聞き取りをし、望ましいコミュニケーションの取り方を伝えることで、トラブルを未然に防ぐようにしている。

次回の会議日程

日時 令和4年11月16日(水) 13:00~16:00

会場 本校図書室および各教室(授業見学:5・6時間目)